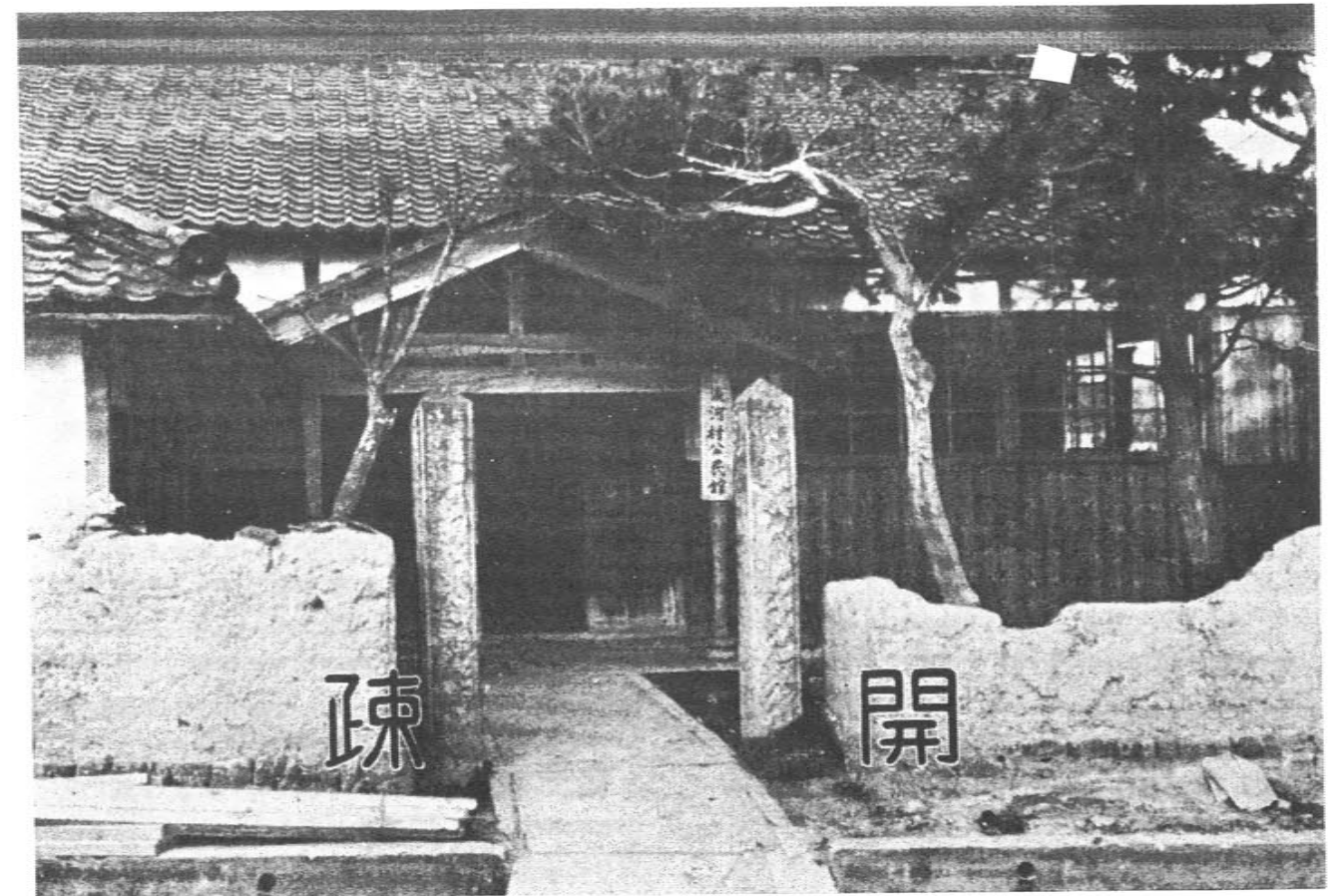


神戸大学学報

No. 452

1994. 5 庶務部庶務課発行



貴重な図書の第三次疎開先であった淡河村の村役場（昭和29年当時）

目		次	
平成6年度入学式	2	◇学内規則	8
◇学内ニュース	5	◇人事	8
・外国人技術研修員（集団研修コース）の来学		・異動 ・研修 ・海外渡航	
・平成6年度春の生存者叙勲、褒賞		◇日誌	14
・平成6年度公開講座実施計画の案内		◇神戸大学100年史編集室だより	15
◇法令	7		
・告示			

平成6年度入学式式辞

神戸大学長 鈴木正裕

皆さん、ご入学おめでとうございます。

私は、ここにご出席の副学長、部局長の先生方をはじめ、神戸大学の全教職員を代表して、皆さんに心からお祝いを申し上げます。

今年入学されたのは、学部学生の皆さん、2,598名、医療技術短期大学部の皆さん、160名、そして養護教諭特別別科の皆さん、40名です。

今年もまた、はげしい競争の入学試験が行われ、学部の場合は、平均してちょうど5倍の競争率、医療技術短期大学部は、4.6倍、養護教諭特別別科は、6.3倍の競争率でした。この厳しい難関を見事に突破され、今日のこの栄えの席に臨んでおられるだけに、皆さんの喜びもひとしおのものがあろうかと存じます。

この喜び、栄冠を得られたのは、なによりも皆さん自身のご努力のたまものでした。しかし、この栄冠の背後には、もう申すまでもありませんが、皆さんを長年の間慈しみ励ましてこられたご両親、ご家族、また、皆さんをいままで教えてこられた先生方、さらには先輩や学友の方たちのご尽力がありました。皆さんがこれらの方々に対する感謝の気持ちを深く胸に刻んで、本学での学生生活を送っていかれるよう望みます。

以下では、まず、神戸大学の歴史を簡単にですがご紹介しておきます。それを通じて、皆さんの母校となる神戸大学がどのようにして生いたってきたか、を知っていただければ幸いです。— 神戸大学は、昭和24（1949）年に、いわゆる新制大学として、兵庫県下の5つの学校を集めて、発足しました。太平洋戦争が終わったのち、新しい大学制度が作られたときに、一部の地方— この近くでは京都府と、大阪府ですが— をのぞいて、一県一大学、一つの県では一つの国立大学しか認めない、そのためにその県下にあるすべての国立の学校を一緒にする、という方針がとられました。兵庫県下には、その当時6つの国立学校がありましたが、ただ一つ神戸高等商船学校（現在の神戸商船大学です。）をのぞき、5つの学校が集まって、神戸大学が作られました。なお、現在、県下に兵庫教育大学という国立大学がありますが、これは昭和53年に新たに作られたものです。

さて、集まった5つの学校のうち、まず、神戸



経済大学、この学校は古くは神戸商業大学（さらに古くは神戸高等商業学校）とっていましたが、この学校から法学部、経済学部、経営学部が作られました。すでに経済大学のなかに、経済学の先生方のほかに、法律学、経営学の先生方もおられたのです。兵庫師範学校、兵庫青年師範学校という二つの学校から、教育学部が作られ、神戸工業専門学校というのから、工学部が作られました。

また、先の神戸経済大学には予科というのがありましたが、これと、旧制姫路高等学校というのに属していた先生方によって、文理学部と教養部というのが作られました。教養部というのは、のちにも詳しく触れますが、学部ではなく、学部に入學した諸君が1、2年生の間そこへ行って教育を受ける特別の組織でした。ですから、発足当時は、以上の6つの学部、法、経済、経営、教育、工、文理の6つの学部だけで、文理学部は、5年のちの昭和29年になって、文学部と理学部に分かれました。

ところで、このように5つの学校を集めて大学を作ったものの、校舎の建築がなかなかそれに追いつきませんでした。法、経済、経営の三学部は、もとの経済大学の校舎を使って授業を始めましたが、工学部は、もともとの校舎が空襲で焼かれたため、神戸市内の二つの場所に分かれて授業を始めました。教育学部は、もとの兵庫師範学校の前身校、前の学校の一つであった御影師範学校のあったところ、阪急電車の御影駅の山手、現在の赤塚山高校のあるところで授業を始めました。文理学

部は、今度は阪神電車の御影駅の近く、現在の御影工業高校のところにありました。教養部は、御影分校と、旧制姫路高校の校舎を使った姫路分校の、二つの分校に分かれていました。まるで蛸の足のようにはうばうに校舎が分かれていたので、蛸の足大学と呼ばれていました。このような状態は、一県一大学の方針のもとに作られた他の国立大学でも、多かれ少なかれ見られたのですが、うちのが全国の代表例の一つとされていました。

このような蛸の足大学の状態が解消されだしたのは、昭和30年代の後半、1960年代にはいつからでした。まず、工学部が現在のところに作られ、次いで教養部が、二つの分校を廃止して、現在の国際文化学部のところに作られ、また、文学部、理学部も現在のところに作られました。この文学部、理学部、さらに私どものいる大学本部のあるところは、昔は神戸ベースといって、アメリカ占領軍（当時は、進駐軍という言葉をよく使っていましたが）の宿舎が並んでいました。

さて、その昭和30年代の終わり頃から、40年代の初めにかけて、医学部と農学部が作られました。まず昭和39年に医学部が、昭和41年に農学部が作られましたが、この両学部は、いずれももともと兵庫県立の大学、県立医大と県立農大でした。ところが兵庫県が、この二つの大学を財政的維持しきれなくなって、国に譲渡した、端的にいうと、引き取ってもらったのでした。

近頃、一部に国立大学を地方へ委譲しろ、という議論が見受けられます。たとえば、神戸大学でいうと、神戸大学を兵庫県立大学にし、というのであります。しかし、県など、地方公共団体の財政状態がいつでもよいとは限らない。それが悪くなれば、医学部や農学部のような、お金のかかる学部は切って捨てられることは、神戸大学は身をもって体験しているのであります。また、このように国立大学を地方へ委譲すると、その大学を出た人たちがその地方に残ってくれる、ともいわれるのですが、そのためにはその地方の産業を振興しなければならない。大学を出た人たちの受け皿を振興し大きくしなければ、大学を出た人たちは残ろうにも残れないので、大学を地方に委譲したところで、解決する問題ではありません。しかし、この点は、このくらいにして、再び神戸大学の歴史に戻しましょう。

昭和52年になると、教育学部に養護教諭特別別科が設けられました。これは、小学校などの養護教諭になっていただくために、1年のあいだ必要

なことをお教えする特別の組織です。また、昭和56年には、神戸大学附属として、3年制の医療技術短期大学部が作られました。これは将来、看護婦、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士になる人を教育する組織で、校舎は神戸市の西北部、地下鉄の名谷駅近くにあります。なお、従来医療技術短期大学部の入学式は、この校舎において行われていましたが、今年から学部、養護教諭特別別科とともに、このような形で合同で行われることになりました。ただ、現在国会で審議が停頓している政府予算案が、審議を再開されて国会を通過しますと、医療技術短期大学部は廃止され、4年制に改められて、医学部の1学科、保健学科というのになります。その意味では、医療技術短期大学部は今年最後の入学者をお迎えしたことになります（ただし、いま、医療技術短期大学部は廃止されると申しましたが、今年入学された皆さんが在籍されているあいだは、医療技術大学部は制度として存続し、従来どおりの教育を続けてまいります。このことを一言、申し添えておきます）。

平成時代にはいると、1昨年、平成4年に神戸大学は全国の注目を浴びるような大がかりな改革を行いました。教養部を廃止して、国際文化学部という新しい学部を作りました。また、教育学部の組織を改め、発達科学部というのにしました。このうち、教育学部は、それまで幼稚園から中学校までの先生方の養成を行ってきましたが、子供の数の減少にともなう先生方を必要とする数も減ってきましたし、一方生涯学習、人間は生涯かけて勉強しなければならない、ということも言われるようになりました。そこで、従来のように中学校までの人間の発達過程だけではなく、赤ちゃんからお年寄までの人間の全発達過程を対象とする学部組織替えしたのでした。次に、教養部が廃止されたのは、以下のような理由によります。

これまで神戸大学に入學した人たちは、最初の1年半ないし2年の間、教養部というところへ行き、そこで一般教育、語学、保健体育といった科目を習い、それが終わったのちそれぞれの学部へ進んで、専門の教育を受けるというシステムがとられていました。このシステムは、ひとり神戸大学のみならず、全国の他の大学でもひろく行われているものでした。しかし、私どもはこのシステムに疑問を持ちました。教育効果、学習効果の点で、このシステムは果して合理的であろうか。たとえ1年生、2年生の人たちでも、ある程度自分の専門に関する講義を聞き、その基礎をマスター

する必要があるのではないかと。他方一般教育等は、それ以後の学年でも学習してもらうことが有用なのではないかと、考えるにいたりしました。

そこで、平成4年になって、従来のカリキュラムを大はばに変更しました。すなわち、現在の神戸大学では、1年生の間に、語学（外国語ですね。）と保健体育、私どもはカリキュラムの変更を機に、これを健康・スポーツ科学と名を改めました、の講義も聞いていただく。しかしそのほかに、皆さんのそれぞれの専門に関する基礎的な講義も聞いていただく。そして、従来の一般教育、これも私どもは、教養原論と名を改めましたが、2年生、3年生の間に聞いていただくというようにカリキュラムの在り方を変えました。この新しいカリキュラムの在り方は、基本的には医療技術短期大学部においても同じであります。

以上のようにカリキュラムの在り方を変えると同時に、私どもは教養部を廃止しました。カリキュラムの在り方の変更によって、1、2年生に一般教育、語学、保健体育を集中して教えていた教養部という組織は、必要ではなくなったからです。そして一般教育（改め教養原論）、語学、保健体育（改め健康・スポーツ科学）は全学部が——新たにできた国際文化部を含め、10学部となりましたが——一致して教えていくことになりました。従来教養部に所属していた先生方は、それぞれの専門に応じて関係する学部配置換えとなりました。これまでお話してきたことからお分かりいただけるように、皆さんには、これから始まる神戸大学の授業において、先に申し上げたカリキュラムにしたがって学習をしていただくことになります。そして、その学習をはじめられるにあたり、私は皆さんに、やはりしっかりと勉強をしてくださいといわざるを得ません。

中国の古典である論語のなかに、孔子の言葉として、「絵の事は素の後にす」というのがあります（絵事後素。八いつ第三）。素という字は、元素の素、素朴というときの素、という字です。この言葉をどう読むか、またその意味内容をどう解釈するかは、専門家の間で議論があるようですが、多くの人たちは、絵を書く前には、その下地である白い布を整えなければならない、という意味に受けとっています。素というのはその下地である白い布のことで、紙の発明される前には、布に絵を書いていたのでしょ。う。絵を書く前には、まずその下地となる布を整えなければならない。それと同じように、皆さんが大学を出て社会で活躍さ

れる前に、その下地である、基礎である知識をしっかり身につけておいていただかなければなりません。

皆さんの中学校時代、高校時代の友人のなかには、すでに社会にはいって働いている人たちがいます。皆さんはこの社会で働くという見地からは、一時の猶予を与えられて、大学で勉強する機会を持たれました。しかし、それでは、なぜ社会は、大学という制度を設け皆さんにそこにはいって勉強される機会を与えているのでしょうか。それは、社会が、皆さんにそれぞれの分野、皆さんの専門とされる分野において、リーダーとなられることを期待してのことなのです。それぞれの専門分野において皆さんが人々に率先して考え、行動し、それを通じてその分野の向上に貢献する人たちになれることを、社会は期待しているのです。この社会の期待に応え、それぞれの分野のリーダーとなるためには、その分野に関する専門的知識を十分マスターしなければなりませんし、また、リーダーにふさわしい教養も身につけなければなりません。皆さんが学習されるのが、専門に関する科目であれ、教養原論など、教養に関する科目であれ、一生懸命に勉強されることが、大学という制度を設けそこで勉強される機会を与えている社会の期待に、皆さんの応えられる道であるわけです。

しかし、私がこう申し上げることは、決して勉強ばかりしろ、ということではありません。遊んでいただけでも結構です。今まで激しい受験勉強に追われていただけに、好きな本を読むこともできなかったでしょう。その本を読んでいただけでも結構です。また、部やサークルにはいり、文化活動や運動に、そのエネルギーを発散されることも、むしろおすすめします。これらを通じて、集団生活の仕方を覚え、また友人を得られることは、皆さんのこれからの人生にとって大変貴重なことです。とくに大学時代に得た友人は、終生を通じての友人となります。

しかし、だからといって、その文化活動や運動に夢中になるあまり、必要な単位を取れず、所定の期間内に大学を卒業できないというの、大学という制度を設けている社会の期待に反するというのも、ナンセンスな話であります。

私の学生時代の友人たちや、教えた人のなかで、勉強ばかりしてあまり人付き合いのなかった人、部やサークルにばかり精を出して、一種の見栄でしょうか、また単位を落とした、と自慢げに言っていた人、いずれの人たちも、その後の社会生活

において有用な働きをしていないようであります。社会のそれぞれの分野で貢献し、それなりの高い評価を受けている人たちは、いずれも学生時代に勉強と遊びを適切に両立させていた人たちでありました。この勉強と遊びを適切に両立させる、ということは、皆さんが大学を出て社会へ進まれたときに、本業と遊び（余裕と言いましょ。うか）を両立させるという、人生の生き方にとって大変重要な問題と結びついてまいります。どうか学生時代に、この問題についてよく考え、体験し、自分のものにするようつとめてください。

以上、神戸大学の歴史を紹介するとともに、その神戸大学で学習をはじめるとの心覚えのようなもの、「絵の事は素の後にす」というようなことを申し上げてきました。

それでは、今一度、皆さんのご入学に心からお喜び申し上げるとともに、皆さんのこれからの神戸大学での生活が、健康にも恵まれて、実り多きものとしてお過ごしになるよう、お祈り申し上げて、私のお祝いの言葉を終わらせていただきます。

（平成6年4月6日・県立文化体育館にて）



学内ニュース

◇外国人技術研修員（集団研修コース）の来学

4月11日（月）午前11時30分に東南アジア等の7か国（インドネシア、タイ、チュニジア、アルゼンチン、ブラジル、チリ、メキシコ）からの技術研修員の一行8名が鈴木学長を表敬訪問されました。

一行は、8月5日までの間、本学農学部において「バイオテクノロジー」を研修題目として技術研修を行うため来学したものです。

特別会議室での懇談では、随員の国際協力事業団兵庫インターナショナルセンター青山所長、桑原副参事、児島研修監理員及び今回の技術研修の指導教官（コースリーダー）である新家農学部教授が同席しました。



—国際主幹—

◇神戸大学名誉教授称号授与式

4月21日(木)午後4時30分から大会議室において神戸大学名誉教授称号授与式を挙行し、次の方々に称号を授与しました。

授与式終了後、瀧川記念学術交流会館で新名誉教授と評議員との懇親会を開催しました。

(前所属官職)

3月1日付 理学部	教授	安川 克己
4月1日付 文学部	〃	熱田 公孝
〃	〃	木内 孝治
〃	〃	小林 萬治
〃	〃	長谷川 善計
発達科学部	〃	角谷 俊二
〃	〃	竹林 信雄
〃	〃	古厩 勝彦
法学部	〃	小原 喜雄
〃	〃	高木 多喜男
経済学部	〃	大野喜久之輔
〃	〃	中村 一雄
経営学部	〃	高田 正淳
〃	〃	水島 一也
理学部	〃	岸本 昇三
〃	〃	細川 藤次
医学部	〃	田中 千賀子
〃	〃	本間 守男
〃	〃	山口 延男
工学部	〃	金治 幸雄
〃	〃	松本 治彌
〃	〃	篁 源亮
〃	〃	宇磨谷 教明
農学部	〃	東 順三
〃	〃	尾崎 叙司
〃	〃	西川 欣一
〃	〃	山口 禎
経済経営研究所	〃	山本 泰督
大学教育研究センター	〃	後藤 博彌



—庶務課—

◇平成6年度春の生存者叙勲

本学関係の受章者は次の方々です。

(4月29日受章)



勲二等 旭日重光章
堯天 義久
(神戸大学名誉教授・元学長)



勲三等 旭日中綬章
下田 与四雄
(神戸大学名誉教授)



勲三等 旭日中綬章
奥谷 禎一
(神戸大学名誉教授)

—人事課—

◇平成6年度春の褒章

6年度春の褒章受章者が4月27日発表されました。

本学関係では皮膚がん研究の権威として世界的に知られている三嶋 豊神戸大学名誉教授が紫綬褒章を受賞されました。

(4月29日受章)



—人事課—

◇平成6年度公開講座実施計画の案内

例年、本学では、全学的な講座や、各部署の特性を生かした独自の講座、スポーツ教室等の公開講座を開催しています。

今年度は、全学で合計9講座を実施することとしています。

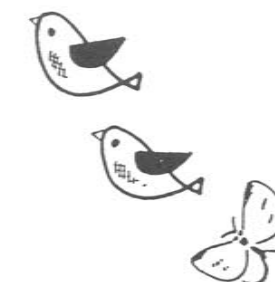
ここに、それぞれの講座の概要をお知らせします。

学部名	講座名	開設期間 時間帯	時間数	講習料	受講対象者	募集人数	開設場所	問い合わせ先
全学	国際社会に生きる日本	9/10~10/29 13:30~16:50	24	円 7,110	市民一般、学生	300	神戸大学 農学部C101教室	神戸大学庶務部庶務課企画広報掛 ☎ (078) 803-0019
発達科学部	スポーツ教室 (少年サッカー)	7/11~7/21 15:00~17:00 14:00~16:00	20	6,100	中学1年生男子	30	神戸大学大学教育 センターグラウンド	神戸大学発達科学部庶務掛 ☎ (078) 803-0864
法学部	公正な企業活動を目指して	6/11~7/9 13:30~16:40	15	5,090	企業の中間管理職、 経営者、一般社会人	150	神戸大学法学部 163号教室	神戸大学法学部庶務掛 ☎ (078) 803-0256
理学部	現代数学の新しい流れ —解析・確率・ 計算数学	7/27~7/29 13:00~17:00	12	5,090	高等学校数学担当教員 (小、中教員可)、 市民一般(大卒程度の 知識を有する者)	50	神戸大学 理学部会議室	神戸大学理学部庶務掛 ☎ (078) 803-0493
医学部	臓器移植	10/8~11/5 13:00~16:10	15	5,090	市民一般	140	神戸大学 医学部第二講堂	神戸大学医学部総務課企画調査掛 ☎ (078) 341-7451 内線 2120, 2121
工学部	科学技術とライフスタイル	6/25~7/30 13:30~17:00	18	6,100	市民一般	120	神戸大学 工学部LR501教室	神戸大学工学部庶務掛 ☎ (078) 803-0714
農学部	くらしと農学最前線	7/11~7/15 13:30~16:40	15	5,090	市民一般	150	神戸大学 農学部C101教室	神戸大学農学部庶務掛 ☎ (078) 803-0613
〃	西はりまの農業・ 農村の明日をひらく	7/11~7/29 9:00~16:00	12	5,090	西はりま地区 農業関係者 他	120	文化会館 「サンホール山崎」	神戸大学農学部庶務掛 ☎ (078) 803-0613
医療技術短期大学部	家庭内での医療 —自分でできる 健康管理—	5/28~6/25 13:20~16:30	15	5,090	市民一般	70	神戸大学医療技術 短期大学部カンファ レンスルーム	神戸大学医療技術短期大学部庶務掛 ☎ (078) 792-2555 内線 220
	計(9講座)					1,130		

—庶務課—



◇文部省告示第58号 教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定した件
(平成6年4月14日付官報)



学 内 規 則

(以下、別冊として掲載)

- ◇神戸大学鶴甲学生生活委員会及び鶴甲第二課程
学生生活委員会規則の一部を改正する規則
- ◇神戸大学大学院自然科学研究科委員会規則の一部
を改正する規則
- ◇神戸大学学則の一部を改正する学則
- ◇神戸大学全学共通授業科目履修規則の一部を改
正する規則
- ◇神戸大学日本語等授業科目履修規則
- ◇神戸大学共通細則の一部を改正する細則
- ◇神戸大学法学部規則の一部を改正する規則
- ◇神戸大学経済学部規則の一部を改正する規則
- ◇神戸大学大学院自然科学研究科規則
- ◇神戸大学大学院国際協力研究科規則の一部を改
正する規則
- ◇神戸大学大学院自然科学研究科研究生規程の一部
を改正する規程
- ◇神戸大学大学院自然科学研究科聴講生規程
- ◇神戸大学大学院自然科学研究科科目等履修生規程
- ◇神戸大学大学院自然科学研究科外国人特別学生
の入学に関する規程の一部を改正する規程
- ◇神戸大学学位規程の一部を改正する規程
- ◇神戸大学学生の補導厚生に関する規則の一部を
改正する規則
- ◇神戸大学会計事務取扱規則
- ◇神戸大学における支出負担行為担当官等の補助
者とする官職及びその事務の範囲等を定める規則
- ◇神戸大学の会計機関の事務の一部を処理させる
職員の範囲等を定める規程
- ◇神戸大学医学部病理組織検査受託規程の一部を
改正する規程
- ◇神戸大学医学部附属病院諸料金規程の一部を改
正する規程
- ◇神戸大学大学教育研究センター規則の一部を改
正する規則
- ◇神戸大学留学生センター規則の一部を改正する
規則
- ◇神戸大学留学生センターの部門に関する規程の一
部を改正する規程

人 事

◇異動

所属部局 官 職	氏 名	発令 月日	異 動 内 容 (異動前の所属官職)
事 務 局 (庶務部) (人事課)			
文部事務官	佐々木 基 充	5. 1	併任〔大阪大学経 理部情報処理課〕
(施設部) (建築課)	原 田 猛	4.11	辞職(第二工営掛 工営主任)
(設備課)			
電 気 掛 電 気 主 任	薬 丸 敏 夫	5. 1	昇任(文部技官)
附属図書館 (情報管理課)			
事務補佐員	片 山 博 子	5. 1	採用
"	高 島 和 枝	"	"
バイオシ ナ ル 研 究 セ ン タ ー			
事務補佐員	鎌 田 香 織	5. 1	採用
大学教育研 究 センター			
教 授	波 田 重 熙	4.16	配置換(高知大学 理学部教授)
事務補佐員	香 川 厚 子	5. 1	採用
国 際 文 化 学			
助 教 授	高 田 祐 彦	5. 1	昇任(講師)
臨時用務員	岩 田 博	4.18	採用
発達科学部			
助 教 授	岡 田 暁 生	5. 1	昇任(大阪大学文 学部助手)
教務補佐員	菊 池 明 美	4. 5	採用
"	柳 原 利佳子	4.11	"
経 済 学 部			
事務補佐員	鎌 足 洋 子	5. 1	採用
理 学 部			
助 教 授	川 越 清 以	4.16	昇任(東京大学理 学部附属素粒子物 理国際センター助 手)

医 学 部	堀 川 達 弥	4.16	休職(助手)
	調 久 光	4.30	辞職(助手)
医 学 部 附 属 病 院			
老 年 科 医 局 科 長	中 田 裕 久	4.16	命(助手)
老 年 科 病 棟 医 長	木 下 芳 一	"	" (") 免(老年科医局長)
医学部助手	中 村 晃	"	免(老年科病棟医 長)
	松 原 司	4.30	辞職(講師)
	出 口 正 喜	5. 1	出向〔国立篠山病 院産婦人科医長〕 (助手)
助 手	谷 口 隆 広	"	採用
脳神経外科 病 棟 医 長	中 村 貢	"	命(医学部助手)
助 手	兒 島 範 明	"	免(脳神経外科病 棟医長)
整 形 外 科 外 来 医 長	土井田 稔	"	命(医学部助手)
(薬 剤 部)			
	西 角 智 代	5. 1	4月30日限り退職 (技能補佐員)
(看 護 部)			
	森 脇 陽 子	4.16	育児休業(看護婦)
	中 村 真理子	4.30	辞職(副看護婦長)
副看護婦長	竹 下 美由紀	5. 1	昇任(看護婦)
助 産 婦	犬 山 由美子	"	配置換(看護婦)
"	関 本 ひとみ	"	" (")
"	寺 口 淳 子	"	" (")
"	長 谷 佐智子	"	" (")
看 護 婦	赤波江 直 美	"	昇任(准看護婦)
"	荒 井 真 樹	"	" (")
"	柏 村 久美子	"	" (")
"	加 納 伯 香	"	" (")
"	倉 恒 直 子	"	" (")
"	堺 佳 子	"	" (")
"	白 髪 裕 子	"	" (")
"	田 中 聖 子	"	" (")
"	中 野 登美子	"	" (")
看 護 士	山 岡 国 春	"	" (准看護士)

看 護 婦	赤 井 純 子	5. 1	配置換(看護助手)
"	安 藤 ゆかり	"	" (")
"	石 戸 佳 美	"	" (")
"	岩 淵 昭 子	"	" (")
"	宇 賀 慶 子	"	" (")
"	大 坪 かおり	"	" (")
"	奥 山 亮 子	"	" (")
"	刈 谷 直 子	"	" (")
"	河 野 純 子	"	" (")
"	金 原 陽 子	"	" (")
"	日 下 美 保	"	" (")
"	久保田 真 美	"	" (")
"	小 東 美輝子	"	" (")
"	小 山 弓 恵	"	" (")
"	齋 藤 真 希	"	" (")
"	坂 口 絹	"	" (")
"	篠 田 麻 里	"	" (")
"	嶋 野 麻里子	"	" (")
"	杉 根 尚 子	"	" (")
"	高 橋 めぐみ	"	" (")
"	高 橋 里 佳	"	" (")
"	田久保 真理子	"	" (")
"	武 内 珠 美	"	" (")
"	橋 早 苗	"	" (")
"	立 脇 直 美	"	" (")
"	田 中 純 子	"	" (")
"	谷 順 子	"	" (")
"	田 端 希 美	"	" (")
"	南 野 さおり	"	" (")
"	野 田 美 佳	"	" (")
"	平 岡 麻 衣	"	" (")
"	藤 井 由 紀	"	" (")
"	藤 井 利江子	"	" (")
"	藤 本 栄 子	"	" (")
"	前 田 千 尋	"	" (")
"	松 下 麻 里	"	" (")
"	松 本 章 子	"	" (")
"	安 井 麻 美	"	" (")

看護婦	安井恵美	5.1	配置換(看護助手)
"	山口範子	"	" (")
"	山田文子	"	" (")
"	山田貴子	5.1	" (")
"	山本清美	"	" (")
"	戸倉ルミ	"	採用
工学部			
助教授	グラチオ ファブリス	4.16	採用
	杉村延広	4.30	辞職(助教授)
評議員	森脇俊道	5.1	併任(教授)
事務補佐員	小池利佳	4.15	採用
"	北風美幸	5.1	"
農学部			
助教授	宮野隆	5.1	昇任(助手)
助手	中屋敷均	"	配置換(自然科学研究科助手)
"	藤嶽暢英	"	" (")
事務補佐員	粉川葉子	"	採用
(附属農場)			
主事	松井範義	4.21	命(助教授)
"	尾崎武	"	" (")
農場長	前川進	5.1	併任(教授)
国際協力研究科			
助教授	楊磊	4.16	採用

◇研修等

*平成6年度近畿地区新採用職員研修(第1回)

期 間 平成6年4月5日～4月8日

会 場 大阪合同庁舎第2号館

主 催 人事院近畿事務局

参加者

庶務部人事課職員掛 森 慎二
 庶務部国際主幹付国際交流掛 高木 礼子
 施設部建築課工事計画掛 松尾多代子
 施設部設備課機械掛 真謝 武美
 発達科学部庶務掛 丸井とし也
 理学部教務学生掛 戸津川宣久
 医学部総務課職員掛 山本 浩嗣
 医学部管理課用度第二掛 佐間野俊英
 医学部医事課医事掛 高下 義徳
 農学部附属農場 白畑 七重

*平成6年度近畿地区新採用職員研修(第2回)

期 間 平成6年4月12日～4月15日

会 場 大阪合同庁舎第4号館

主 催 人事院近畿事務局

参加者

庶務部人事課福祉掛 新田 祐子
 経理部経理課給与掛 日下 理恵
 経理部経理課共催組合掛 佐竹 文
 医学部管理課経理掛 山口 秀司
 医学部医事課外来掛 寺山 静子
 医学部医事課医療情報処理掛 岩本 智裕
 経済経営研究所会計掛 稲井 美穂

—人事課—

◇平成6年度新規採用看護婦研修

本年4月1日付けで採用した看護職員を対象に、国家公務員としての在り方を学び、大学病院における看護職員の使命と責任を自覚させ、職場への適応を図ることを目的として、4月1日(金)から4月6日(水)までの4日間にわたって研修を行いました。初日は、医学部第4講堂で、2日目以降は、医学部附属病院第1会議室を会場に講義方式で行いましたが、4月4日(月)には、瀧川記念学術交流会館において、鈴木学長の講話があり、引き続き本部玄関前で記念撮影を行いました。また、満開の桜を觀賞しながら文理農キャンパスを散策し、病院とは一味違う大学の雰囲気を楽しむことができました。



—医学部—

◇海外渡航

所 属	職 名	氏 名	渡 航 先	渡 航 目 的	渡航期間	備 考
文学部	講 師	油 井 清 光	イスラエル	日本近代化過程に関する比較社会学的研究のため	6. 4.15 6.10.16 (6.8.21～6.8.26 除く)	出張
法学部	教 授	小 泉 直 樹	アメリカ合衆国	シンポジウム「知的財産権の第三のパラダイムに向けて」に出席のため	6. 4.21 6. 4.26	研 修
経済学部	助教授	吉 井 昌 彦	ラオス	ラオス経済事情に関する資料収集及び人材開発プログラム実施のため	6. 4. 6 6. 4.19	出張
経営学部	教 授	坂 下 昭 宣	アメリカ合衆国	企業文化とシンボリック・マネジャーの日米比較に関する実証的研究	6. 4. 2 7. 2. 1	"
"	助教授	末 廣 英 生	"	階層組織に関する共同研究のため	6. 4. 4 6. 4.15	"
"	教 授	奥 林 康 司	ハンガリー人民共和国 ドイツ連邦共和国 連合王国	在欧日系企業の経営に関する聞き取り調査及び資料収集	6. 4. 4 6. 9.28	"
"	"	天 野 明 弘	イタリア	地球環境問題に関する状況調査のため	6. 4.25 6. 4.30	"
理学部	講 師	湯 本 貴 和	マレーシア	「モンスーンアジア陸域生態系における地球温暖化のインパクト」研究打合せ	6. 4. 3 6. 4.11	"
"	教 授	高 野 恭 一	フランス	合流型超幾何関数、パウルヴェ方程式の研究	6. 4.11 6. 6.10	"
"	助教授	新 井 正 敏	連合王国	中性子散乱実験	6. 4.20 6. 5. 1	研 修
医学部	"	前 川 信 博	アメリカ合衆国	麻酔学に関する研究のため	6. 4. 1 7. 3.31	"
"	教 授	岡 田 昌 義	ドイツ	第111回ドイツ外科学会出席及び外科学に関する研究交換のため	6. 4. 3 6. 4.10	"
"	"	千 原 和 夫	フランス	第5回ヒト成長ホルモンシンポジウム出席のため	6. 4. 7 6. 4.10	"
"	助 手	置 村 康 彦	"	"	"	"
"	助教授	荒 川 創 一	ドイツ	非失禁型代用膀胱に関する基礎的及び臨床的研究のため	6. 4. 8 7. 8.31	"
"	助 手	的 崎 尚	アメリカ合衆国	米国癌学会議出席のため	6. 4.11 6. 4.15	"
"	講 師	丸 尾 猛	"	第64回国際生殖医学委員会出席及び生殖医学に関する研究交換のため	6. 4.12 6. 4.21	出張
"	"	内 山 三 郎	カンボジア	地域保健研究および疫学調査のため	6. 4.15 6. 4.20	研 修

医学部	講師	原田俊彦	アメリカ合衆国	第1回日米脊椎外科学会出席のため	6. 4.16 }	出張
"	教授	西塚泰美	スペイン	シンポジウム「プロテインキナーゼCと細胞内情報伝達網」に出席および生化学に関する研究交換のため	6. 4.21 }	"
"	講師	斎藤尚亮	"	"	"	研修
"	"	井上正則	アメリカ合衆国	第9回デューク大学網膜硝子体手術講習会出席及び硝子体手術に関する研究交換のため	6. 4.22 }	"
"	助手	塚原康友	"	"	"	"
"	講師	片山千加子	"	1994年ARVO学会出席及び眼科学に関する研究交換のため	6. 4.24 }	"
"	"	上田正登	"	第55回研究皮膚科学会出席のため	6. 4.25 }	出張
"	助手	山村恵造	"	第55回米国研究皮膚科学会出席及び皮膚科学に関する研究交換のため	6. 4.25 }	研修
"	教授	市橋正光	"	"	6. 4.26 }	"
"	助手	安積淳	"	1994年度 The Association for Research in Vision and Ophthalmology 年次総会出席及び眼免疫学に関する研究交換のため	6. 4.26 }	"
"	"	辻村まり	"	1994年ARVO annual meeting 及び眼科学に関する研究交換のため	6. 4.28 }	"
"	教授	河野通雄	イタリア	第24回フライシュナーソサエティ会議に出席及びローマ大学並びにボローニャ大学において放射線医学に関する研究交換のため	6. 4.29 }	出張
"	助手	米谷昌彦	アメリカ合衆国	アメリカ小児科学会出席及び新生児学に関する研究交換のため	6. 4.30 }	研修
工学部	教授	室崎益輝	フランス, フィンランド スウェーデン ノルウェー	地下建築物の防災対策に関する調査	6. 4. 2 }	"
"	助手	神吉和夫	中華人民共和国	都市水利史施設の視察と情報交換	6. 4. 2 }	"
"	教授	西野種夫	"	薄膜の物理及び応用に関する国際会議に出席・講演	6. 4.15 }	出張
"	助教授	大久保政芳	ドイツ, フランス	第3回分散系におけるラジカル共重合体に関する国際シンポジウム出席並びに高分子超微粒子に関する研究討論	6. 4.16 }	"
"	教授	高田至郎	中華人民共和国	第2回中日米ライフライン地震工学シンポジウム出席及びライフライン地震工学に関する資料収集	6. 4.17 }	研修
"	助手	森川英典	"	"	"	"

工学部	助手	西山 覚	ベルギー	国際会議出席及び研究資料収集	6. 4.18 }	研修
"	教授	多淵敏樹	インドネシア	アジア・オセアニアの建築遺構の調査	6. 4.22 }	"
"	助教授	足立裕司	"	"	"	"
"	"	黒田龍二	"	"	"	"
"	教授	平井一正	中華人民共和国	システム工学に関する講義と調査研究	6. 4.28 }	出張
"	助手	社本英二	ドイツ, オランダ ベルギー	国際会議出席及び研究資料収集	6. 4.30 }	"
農学部	"	芦田 均	アメリカ合衆国	食品に含まれる環境毒物に関する研究	6. 4. 1 }	研修
"	助教授	豊田 淨彦	ハンガリー共和国 連合王国	農産食品の乾燥における一般化多槽モデルの研究及び第2回農業と園芸における数学と制御の応用に関するワークショップの出席及び発表	6. 4.10 }	出張
"	助手	森 直樹	アメリカ合衆国	コムギの倍数性進化に伴うゲノムの再編成および機能分化に関する研究	6. 4.20 }	"
経済経営 研究所	"	宮尾龍蔵	"	マクロ経済の国際比較研究のため	6. 4.19 }	研修
"	教授	阿部茂行	タイ	「AFTAとその後—アセアンからの展望」に関する国際会議に出席のため	6. 4.26 }	"
国際協力 研究科	"	内田康雄	インドネシア共和国	「移行期経済諸国支援国際会議」出席のため	6. 4. 5 }	"
"	"	内田康雄	連合王国	英国 Overseas Development Instituteでの「アフリカ開発援助会議」出席のため	6. 4.26 }	"
医療技術 短期 大学部	助手	村木敏明	連合王国 デンマーク	第11回世界作業療法士連盟世界会議に出席及びデンマークにおける身体障害に対する作業療法に関する情報収集	6. 4.12 }	出張
"	教授	古川 宏	連合王国, ドイツ	第11回WFOT世界会議出席とKSSの治療効果に関する研究交換のため	6. 4.12 }	"
"	助教授	渡邊 信	"	"	"	"
"	教授	金子 翼	連合王国	第11回世界作業療法士連盟世界会議出席及び自律神経学に関する資料収集のため	6. 4.16 }	"
"	"	武富由雄	"	"	6. 4.16 }	"

◇訂正

学報 No.	頁	誤					正				
		部 局	官職	氏 名	併任期間	前 任 者 氏 名 理由	部 局	官職	氏 名	併任期間	前 任 者 氏 名 理由
451	12	医学部	〃	岡田安弘	〃	山鳥 崇 〃	医学部	〃	岡田安弘	〃	松村武男 〃

学報 No.	頁	誤					正				
		部 局	官職	氏 名	併任期間	前 任 者 氏 名 理由	部 局	官職	氏 名	併任期間	前 任 者 氏 名 理由
451	28	文部事務官	岡本安正	〃	転任（兵庫教育大学 庶務課文部事務官）	〃	文部事務官	岡本安生	〃	転任（兵庫教育大学 庶務課文部事務官）	〃
	29	大学院会計掛 大学院会計主任	阪下隆治	〃	〃（工学部文部 事務官）	〃	大学院会計掛 大学院会計主任	阪下隆治	〃	配置換（工学部用度 掛調達主任）	〃
	31	庶務掛 人事主任	霞末 悟	〃	昇任（経理部文部 事務官）	〃	庶務掛 人事主任	霞末 悟	〃	昇任（経理部文部 事務官）	〃
	36		岸本光男	3.31	定年退職（庶務掛 長）	〃		岸本元男	3.31	定年退職（庶務掛 長）	〃

日 誌

（平成6年4月）

- 4月4日（月）臨時事務連絡会議
- 6日（水）平成6年度入学式（於 県立文化体育館）
- 12日（火）留学生センター予備教育コース
開講式・オリエンテーション
- 14日（木）部局長会議
- 19日（火）事務連絡会議
- 21日（木）評議会、名誉教授称号授与式



神戸大学100年史編集室だより

歴史のひとこま

前身校の歴史－神戸経済大学附属図書館－

昭和19年9月27日勅令第558号官立商業大学官制中改正ノ件の公布を以て、「神戸商業大学」は「神戸経済大学」に改称されることになった。この大学名称の変更がどのような意味をもっていたのかということについては、本学報の第418号において述べているので詳細はそちらに譲ることにする。

大学の名称が変わった昭和19年末～20年にかけて、大太平洋戦争の戦局はいよいよ最終局面を迎えるとともに、阪神地域への本格的な爆撃も間近に迫っていたのである。大学当局は、このような状況を考慮して、事務機構の一部を当分の間他の場所へ疎開させる計画を企て、それを具体化させていたのである。また同時に附属図書館所蔵の図書（とりわけ貴重図書を中心とする）の疎開も検討され、実施されることになった。

図書の疎開についても、かつて本誌第419号において簡単にふれたことがあるが、ここでもう少し詳しく見ておきたいと思う。

全国的に見ても極めて稀なケースと思われる図書が最初に疎開したのは、昭和19年12月で兵庫・岡山両県の県境に近い兵庫県佐用郡中山村の一農家の土蔵で、貴重書約300冊が特製の木箱40に密封されて運ばれた。その中には、故坂本彌三郎・故八木助市両教授が第一次世界大戦直後に収集されたスミス・マルサス・メンガーなど著名な経済学者たちの著書の初版本が含まれていた。

その後も翌20年5月には準稀観書約800冊を特製の木箱に入れ、現在の三木市域に属する旧美囊郡志染村へ、そして同年6月には大学の事務機構の疎開先でもあった旧美囊郡淡河村（現神戸市北区淡河町）へ重要図書・洋雑誌のバックナンバーなど約3000冊と、図書館に関する重要書類および図書カードなどが普通の木箱にバラ積されて運ばれた。

さらに終戦間近の8月にも、選定図書約3000冊の疎開先を求めて、当時の八木助市図書館長は、岡山県赤磐郡佐伯村や広島県へも手を広げて図書疎開の交渉に奔走されたのである。